

子どもは人類の宝もの③

『子どもたちに残してあげられるもの...』親になれば、誰しもが一度は考えたことがあるでしょう。

よく聞く言葉は『残す財産もないので学歴くらいは付けさせたい』『生きる力だけは付けさせたい』という親御さんの願いです。また、子どもに手が掛らない年頃になってくると『年を取ってから子どもたちに迷惑を掛けたくない』とおきたいと考える方も少なくありません。

日本中全員で次世代に苦勞のない世界を作っていくってあげたいと願っているのです。しかし学歴を付けさせたくても子ども自身の進路の希望と合わなかったり、親御さんの方針に迷いが生じたりすると、どうにも收拾が付かなくなってしまう場合も少なくありません。ましてや『生きる力』などというものは、付ける努力をして付くものでもなく、足りないものを補いたいと思う生活の中で育まれるものですから『ゆとり教育』に象徴される様にカリキュラムでどうにかなるものにはありません。また、子どもに迷惑を掛けたくないなど

と考えても、心身ともに衰えていく能力を経験でカバーするには限界があり、どうにもならなくなる不測の事態を防ぎきれない場面は必ずあるでしょう。予定通りにも計画通りにもいくはずもないのです。

それでも子どもたちのために考えるのが大人の自然な願いであり、自分たちよりもっと良くなつて欲しいと考えることも当たり前のことでしょう。そうしますと、大人は今何を残さなければならぬのかという事を、私は子どもたちと毎日を過ごしながら思いを廻らせております。

地域で子どもたちを育む安心安全な環境。心穏やかな助け合いの心。全ての基本はそこにあるのではないのでしょうか。しかしその世の中を作る公式も手順も確固たるものはありません。私の願いを申し上げれば、優先すべきものは何かというのを間違えない子どもにも伝えていきたいということです。

自分より相手の方、自分より子どもたち、自分より弱い者、自分より困っている人。そちらを優先する心を子どもたち

ちに育てたい。それには先ず私の一挙手一投足で伝えなければと自分を律しております。それさえ子どもたちの心に残しておけば、有形の物は何も必要ないのではないかと考えるのです。

大人が子どもたちの心に大切なことを残すという事は子どもたちの心の中に自らのいのちを残すということでしょう。この無形の財産は何事にも代えがたい次世代への贈り物です。私たちの思いが次世代の心に繋がって、脈々と続いて行った時に、思いの心髄がぶれていないことを強く願います。

有限会社 総合教育
代表取締役社長

土井 悦代

3人娘の母であり学習塾開塾の塾頭。家庭教師5年の経験を活かし、12年前開塾を開設。様々な苦悩を乗り越え、子どもを思う気持ちから始めた一教室が現在では長野県・新潟県の地区本部となっている。その他、長野県内高等学校の評議員も務める。

<http://s-nakagosyo.kanjuku.ne.jp/>



ほほえみの「ほ」

○ほほえみの「ほ」は、『惚れる』の「ほ」
ほほえみは、まず自分自身を惚れさせてくれる。

○ほほえみの「ほ」は、『解く』の「ほ」
ほほえみは、不安や疲れから開放してくれる。

○ほほえみの「ほ」は、『包容』の「ほ」
ほほえみは、心を大きくし、きもちのすべてを風呂敷のように包んでくれる。

○ほほえみの「ほ」は、『箒』の「ほ」
ほほえみは、いろいろな汚れやほこりを掃き清めてくれる。

○ほほえみの「ほ」は、『朋友』の「ほ」
ほほえみは、よき人、よき友、よき出会いをつくってくれる。

○ほほえみの「ほ」は、『芳香』の「ほ」
ほほえみは人のまわりには、いつもかぐわしい香りをただよわせてくれる。

○ほほえみの「ほ」は、『方向』の「ほ」
ほほえみは、よき人生の方向(運命)、方角(天命)、方針(運勢)を示してくれる。

○ほほえみの「ほ」は、『阿呆』の「ほ」
ほほえみは、自分の「愚かさ」、自分の「弱さ」、「馬鹿さ」を教えてくれる。

○ほほえみの「ほ」は、『報恩奉仕』の「ほ」
ほほえみは、もろもろの恩を知り、奉仕(仕事)を通じて法願(聖使命)に進進させてくれる。

○ほほえみの「ほ」は、『法顔』の「ほ」
観音さまのほほえみ、マリアさまのほほえみ。

ほほえみの「ほ」は人と人との扶(たす)け合い、支え合いを教えてくれる。

ほほえみ読本Iより

